

七月三十日よりネパールはムスタンを訪問す。昨年の印度ラダック行と同じく五反田のNヨ
ーガ教室主催の旅行にて、N先生新譯「ヒマラヤ聖者への道」^一、^二、^三出版記念ツアーと銘打
ちたり。

「ヒマラヤ聖者への道」は、米國人ベアード・スポールディングの著なり。嘗て仲里誠吉譯「ヒマラ
ヤ聖者の生活探究」全五巻として上梓され、先日鬼籍に入られし船井幸雄氏の愛讀書として
も知らる。今回の旅行の目的地なるローマンタンは舊ムスタン王國の首都にて、今より凡そ百二
十年前、此の本に登場せしヒマラヤ聖者エミール師の活動の舞臺とぞ聞く。西藏佛教の原型を
保つ稀有の地にて倍音聲明行ふこと旅の目的なり。永年鎖國されし地域にて現在も外國人の
入場數制限有り。

ネパールの査證申請せむと電腦にて檢索す。ネパール大使館は目黒區内に所在するなり。
グーグルアースを以て見るに、大使館とは云へ民家にネパール國旗掲げたるが如し。現地に赴
けど住宅地の中なる一軒にて大使館とは思へず。二軒續きの右が大使館、左が大使公邸なり
や。査證申請に際しても、萬事大まか大らかななり。

さて、ローマンタンは高度三千八百九十米、富士山頂上より高し。高山病に備へ友人の醫師
に藥の處方依頼す。又、現地の寢具不完全との事にて、攝氏五度迄堪へ得る寢袋購入す。更
にネパールは雨期なれば防水の登山靴必要とてゴアテックスの靴新調せり。

彼の地にては人々落し紙使用せぬ由。印度等と同じく水にて洗ふなり。故にホテルにはトイ
レットペーパーの備附は有れど、日本の三分の一程度の直徑なり。トイレットペーパー數本トラ
ンクに收む。

今回は羽田空港發の便なり。されど歸國は成田空港と變則なり。又、羽田空港を二十日に
出發とは云ふものの、三十日午前零時廿分發とは又變則なり。故に空港での集合時間は其の
前日二十九日午後十時なり。羽田空港の廿四時間操業にて斯かる紛らはしき出發時間發生
するなり。

其の後の豫定は、現地時間午前四時五十分泰國バンコク到着。時差二時間なれば約六時間
半の空路なり。當地にて關西空港出發組と合流、泰國國際航空機にて十時十五分ネパールはカ
トマンズに向け出發、カトマンズ到着は十二時廿五分の豫定なり。泰國とネパールの時差は一
時間十五分なれば約三時間半の旅なり。是より愈々ネパールなり。(續く)